

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書  
2023年度報告書

|         |   |    |           |
|---------|---|----|-----------|
| 代表者氏名   | 李 艶   | 所属 | 聖泉大学 人間学部 |
| 研究集会等名称 | 文化と心理学  |    |           |
| 成果概要    | <p>2012年度から2023年度まで、12年間の研究会活動継続ができたのは、この研究集会助成金制度と学会の支援があったからです。非常に感謝しています。</p> <p>12年間【文化と心理学研究会】は大きな成果を挙げられました。日本全国で公開講演会を通算15回行いました。公開講演会の参加者総数は千人を超え、参加者から大変好評をいただきました。また、毎年研究会のメンバーは日本国内の心理学関連の学会で研究発表をし、2016年7月に横浜で開催された国際心理学大会（ICP2016）にて本研究会のメンバーが発表することができ、大いに研究成果を上げました。</p> <p>過去二年間の講演会は「外国人労働者を受け入れ・サポートするについて」のテーマで、その内容は、「異文化適応は外国人だけのことではなく、日本人も異文化適応が必要です。真の交流は互いに相手のことを知るから、相手を理解しようとする動機を持つことが非常に重要です。異文化適応は、母国文化を大切にすうえで、他文化に好意をもって積極的に接触することから始まります。語学力も異文化適応の質に影響します。」でした。</p> <p>2021年度の研究会活動は、コロナ禍により世界各国の政府の取り組みに関する意思決定の比較や、不安や恐怖によって生じた社会現象を中心に、比較文化アプローチの研究を行いました。2022年度は共感についての比較文化心理学の研究を行いました。2023年度は災害後の成長のテーマを取り上げます。新型コロナウイルスの感染拡大により、それまでの生活は送れなくなり、仕事を失い、大切な人を失い、多くの方が心に深い傷跡と喪失感を持つこととなりました。経済そして心身に及ぶダメージは、克服するのに数年、あるいは十数年かかるほど深刻な問題です。「心的外傷後成長PTG」は「災害後」新たな絆を育むことや、以前よりも強い信念や価値観を持つようになることを定義し、研究を取り組んできた。</p> <p>2023年の研究会活動の成果はあり、未曾有のコロナ感染拡大による人間の心の変容について取り上げた研究会の大きなプロジェクトが一步前進した。</p> <p>今年度の研究会ではタイの研究者をお招きし、タイのコロナ感染後の人々の心の変容について講演していただいた。</p> <p>講演会を通じて、比較文化という視点から、世界のアフターコロナにおける回復の状況の理解に一助となったことは、大変意義があったと実感できた。</p> |    |           |

2024年3月30日

日本心理学会研究会 2023 年度会計報告書

研究会名称 文化と心理学研究会

研究会番号 研 23007

助成金額 ¥30,000

| 年月日         | 項目                            | 金額      |
|-------------|-------------------------------|---------|
| 2023年11月24日 | 外部講師による研究会講演会講師謝礼(1名) (交通費込み) | ¥30,000 |
| その他         | 会場費、雑費など                      | ¥10,000 |

合計 40,000

注：その他 代表者李艶が負担した。

交通費 (平日宿泊ホテルからの移動)